



病診連携通信

第 51 号

(公財)湯浅報恩会
寿泉堂綜合病院
令和6年 11月吉日

健康診断の結果で悩む事第一位 良くわからない血液像コメントの解説

検査結果	解 説
「赤血球大小不同」	赤血球の大きさで、正常より大きなものや小さなものが多数出現する現象。大抵の場合小球性変化を伴っており、慢性の出血(痔疾や婦人科疾患など)慢性炎症(リウマチなど)鉄吸収障害などを示唆します。
「球状赤血球」	赤血球の形態異常で、遺伝性球状赤血球症や自己免疫性貧血で出現。黄疸やLDH高値、貧血が伴う時は血液学的精査が必要です。
「標的赤血球」	ヘモグロビンの合成障害で赤血球が過剰に凹んでいる状態。慢性肝障害や脾臓摘出後に出現しやすい。このコメントが大小不同と一緒に出てくれば鉄欠乏性貧血を意味します。稀にサラセミアなどのヘモグロビン合成障害疾患があります。
「破碎赤血球」	健診で指摘されるのは、ほとんどが人工弁症例による溶血です。DIC、TTP、HUSでも破碎赤血球は出現しますが、これらは全身状態不良となる疾患です。
「Howell-Jolly body」 「ハウエルジョリー小体」	赤芽球から脱核するときの核の遺残物です。脾臓摘出後の機械的遺残は病歴で判断できます。VB12欠乏、骨髄異形成症候群、抗がん剤投与時などの核分裂障害でも出現する場合があります。
「大型血小板」	正常血小板の直径の2倍から4倍の血小板の出現を意味します。健常人でも時折出現するため、血小板数減少や出血傾向がなければ経過観察、症状を伴う場合は血液学的精査をお勧めします。
「異型リンパ球」	外部刺激に対し活性化して幼若化したリンパ球のこと。ウイルス感染症、アレルギー、結核、自己免疫性疾患などで出現します。その他に心臓血管手術後、輸血後にも出現することが知られています。採血から時間がたっている検体では正常リンパ球と区別がつきにくく異型リンパ球表示される可能性もあります。
「異常リンパ球」	よく異型リンパ球と混同されますが、こちらは腫瘍性変化ですので、異常リンパ球表示を確認された時は 可及的速やかに血液内科を受診してください。
「好中球中毒性顆粒」	重症感染症やG-CSF投与時の好中球造血が亢進している時にアズール顆粒が小さくならずに残存したもの。特に誘因なく出現した時には、後日の再検査をお勧めします。
「Auer body」 「アウエル小体」	急性骨髄性白血病です。 緊急対応が必要です。

判断に困った時には当科までまずご連絡下さい。

できれば他の検査値もあると判断がより正確になると思います。

血液内科 岡本正俊



寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760 (直通) または

☎024-932-6363 (代表) にお問い合わせください。